

5 畜 産

項 目	作 業 内 容																			
<p>(1) 良質な堆肥の製造</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○良質な堆肥の製造 ○農作業機械等の点検と準備 ○飼養管理や生産現場における事故防止 <p>春先は、土壌改良や基肥等で堆肥の需要が高まり出荷が盛んになるが、同時に秋植え作物に向けた堆肥づくりが始まる時期でもある。良質な堆肥製造には、通気性の確保による良好な発酵が不可欠である。堆肥の通気性は、原料の水分含量によるところが大きいが、製造現場での水分測定は難しいため、原料比重を目安にする方法が推奨されている。通気性が確保される(発酵が始まる)水分含量は、糞の物理性や混合する副資材(敷料)の性状が異なるため、畜種や副資材によって差異があるので注意する。</p> <p>表1の水分含量の時、堆肥原料の比重は概ね0.7(容積量700kg/m³)以下となり、通気性が確保された状態とされる。</p> <p>表1 通気性が確保される水分含量</p> <table border="1" data-bbox="459 1086 1343 1281"> <thead> <tr> <th rowspan="2">畜 種</th> <th colspan="4">堆 肥 原 料</th> </tr> <tr> <th>副資材なし</th> <th>戻し堆肥</th> <th>おが屑混合</th> <th>モミ殻混合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>牛ふん</td> <td>65%以下</td> <td>68%以下</td> <td>72%以下</td> <td>75%以下</td> </tr> <tr> <td>豚・鶏ふん</td> <td>55%以下</td> <td>8%以下</td> <td>62%以下</td> <td>65%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>この比重を簡易にする方法として、10リットル容のバケツに堆肥原料を入れ重量を測定し、重量が7kg(比重0.7)以下になっているか確認する(写真1)。重量がそれ以上の場合は、おが屑や完熟堆肥等を追加して比重を調整する。</p> <p>また、適正比重であっても、堆肥舎に堆積したままでは深部の発酵が進まず、嫌気状態による悪臭の生成や発酵温度が上がらず雑草種子や病原菌の死滅に至らないことになる。そこで、発酵温度60℃以上が数日間維持できるよう、定期的な切り返しにより好氣的環境を維持するよう努める。</p>	畜 種	堆 肥 原 料				副資材なし	戻し堆肥	おが屑混合	モミ殻混合	牛ふん	65%以下	68%以下	72%以下	75%以下	豚・鶏ふん	55%以下	8%以下	62%以下	65%以下
畜 種	堆 肥 原 料																			
	副資材なし	戻し堆肥	おが屑混合	モミ殻混合																
牛ふん	65%以下	68%以下	72%以下	75%以下																
豚・鶏ふん	55%以下	8%以下	62%以下	65%以下																
<p>(2) 農作業機</p>	<p>4月からイタリアンライグラス等の収穫や夏作のは種が始ま</p>																			



写真1 比重調整(堆肥容積に対する重量確認)

